

## 事務局報告

## 第85回(2021年度第1回)幹事会 議事要録

日時:2020年10月26日(月) 9:00~12:00

場所:Zoomによるオンライン会議

出席者:能城会長,村上庶務幹事,山川会計幹事,西内広報・渉外幹事,工藤編集委員長,那須行事委員長,林行事副委員長,藤井自然史学会連合担当

## 報告事項

1. 総会議長推薦者:2021年度総会の議長推薦者について報告された。
2. 会員動向および会費納入状況:2020年9月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員263名,シニア会員25名,学生会員21名,団体会員4団体)。2020年度(2019年10月1日から)の増減は,入会者7名(一般会員3名,学生会員4名),退会者15名(一般会員11名,学生会員4名),除名3名で,会員数は11名減少し,シニア会員への種別変更が4名あった。
3. 第12回奨励賞について:第12回奨励賞の選考結果について報告があり,大会において表彰されることが了承された。
4. 植生史研究の編集状況:第29巻第1号が刊行に向けて準備中であることが報告された。

## 審議事項

1. 第48回・49回談話会および第36回大会について:第48回談話会はオンラインで顕微鏡の画像を共有し,大型植物遺体の同定法を初心者向けに紹介する方式で実施することが了承された。第36回大会および第49回談話会は,今年度新型コロナウイルス流行により実施できなかった山梨大会と巡検を延期し,来年度に行う方向で検討しているとの報告があり,了承された。第36回日本植生史学会大会を2021年10月30日(土),31日(日)に帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)にて開催するべく準備することとした。大会実行委員長は中山誠二氏とする。
2. 会員アンケートの結果について:2020年5月に実施した会員アンケートの結果が報告された。総会で結果の概要を示したのち会誌で報告することが了承された。
3. 植生史研究のJ-STAGE登録について:前回幹事会後に登録準備を進め,2020年10月から公開できるようになったことが報告されたのち,今後必要となる登録作業について進めていくことが了承された。
4. 植生史研究の価格変更について:植生史研究の販売価

格について検討し,第27巻第2号までを1号あたり1冊500円にて販売することとした。

5. 次回幹事会日程について:次回幹事会は2021年3月頃にオンライン方式にて開催することとした。

## 第86回(2021年度第2回)幹事会 議事要録

日時:2021年4月12日(月) 13:00~14:30

場所:Zoomによるオンライン会議

出席者:能城会長,村上庶務幹事,山川会計幹事,西内広報・渉外幹事,工藤編集委員長,那須行事委員長,林行事副委員長,

## 報告事項

1. 会員動向および会費納入状況:2021年2月28日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員259名,シニア会員29名,学生会員26名,団体会員4団体)。2021年度(2020年10月1日から)の増減は,入会者8名(一般会員3名,学生会員5名),退会者3名(一般会員3名)で,会員数は5名増加し,シニア会員への種別変更申請が1名あった。会費納入状況について報告された。
2. バックナンバーの保管状況について:会誌バックナンバーの保管状況について報告があり,学会ホームページにて在庫数の更新を行うことが確認された。
3. 植生史研究の編集状況:第29巻第2号が刊行に向けて準備中であることが報告された。

## 審議事項

1. 第49回・50回談話会および第36回・第37回大会について:第49回・第50回談話会は,第48回に続いてオンライン講習会方式とし,顕微鏡の画像を共有しながら花粉や木材の同定法を初心者向けに紹介する方式で実施することが了承された。第36回大会は,昨年度新型コロナウイルス流行により実施できなかった山梨大会を延期し,オンラインとのハイブリッド方式にて行う方向で検討しているとの報告があり,了承された。第36回日本植生史学会大会を2021年10月30日(土),31日(日)に帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)にて開催するべく協議した。大会実行委員長は中山誠二氏とする。また第37回大会は奈良文化財研究所(奈良市)にて開催するべく準備することとした。
2. 会員アンケートの結果を受けた行動計画の策定について:2020年5月に実施した会員アンケートの結果を受けて行動計画を策定し,次回の総会で会員に提示するべ

- く準備を進めていくことについて了承された。
3. 植生史研究のJ-STAGE登録について：登録準備作業の進捗について報告されたのち、会員を対象として早期公開を行うべく準備を進めていくことが了承された。
  4. 次号ニューズレターの内容について：次号ニューズレター (No. 54) は第36回大会案内の第1報と第49回談話会の案内とすることが報告され、了承された。
  5. 次回幹事会日程について：次回幹事会は2021年7月にオンライン方式にて開催することとした。

#### 第87回(2021年度第2回)幹事会 議事要録

日時：2021年7月26日(月) 10:00～12:20

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：能城会長，村上庶務幹事，山川会計幹事，西内広報・渉外幹事，工藤編集委員長，那須行事委員長，林行事副委員長

#### 報告事項

1. 会員動向および会費納入状況：2021年6月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名，賛助会員1社，一般会員255名，シニア会員29名，学生会員21名，団体会員4団体)。2021年度(2021年3月1日から)の増減は，入会者なし，退会者1名(学生会員1名)，除名4名(一般会員3名，学生会員1名)であった。シニア会員への種別変更申請が2件あった。会費納入状況について報告された。
2. 第6回論文賞の結果について：審査委員会より論文2本の受賞について答申があったことが報告された。
3. 会長・評議員選挙の経過について：山崎健選挙管理委員長のもと選挙準備を進め，現在投票期間中であることが報告された。来月の開票と結果公示に向けて準備が進んでいることが確認された。
4. 植生史研究の編集状況について：第29巻第2号が刊行に向けて準備中であることが報告された。
5. 植生史研究のJ-STAGE登録について：登録作業が順調に進んでいることが報告された。今後刊行の会誌についても，同様の登録のための作業が必要であることが確認された。

#### 審議事項

1. 会員アンケート結果を受けた学会運営改善案の策定に向けて：3つの目標を明示した改善案を次回総会で会員に提示すべく，準備を進めることが確認された。
2. シニア会員の承認について：次年度からのシニア会員への移行についての申請があり，来年度からの会員種別変更を認めることが承認された。
3. 第49回・50回談話会および第36回・第37回大会

について：第49回として花粉のオンライン同定会を実施するべく準備をすることが了承された。第36回大会の実施方式と会員への告知について確認し，10月30日(土)，31日(日)に帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)での対面方式とオンライン方式のハイブリッドにて開催することが承認され，実施にあたっての具体的な課題が検討された。第37回大会(会場：奈良文化財研究所)に向けての準備状況が報告され，花粉学会との共催で大会を行うことが承認された。

4. 次号ニューズレターの内容について：次号ニューズレター (No. 55) は第36回大会案内の第2報と会長・評議員選挙結果，第6回論文賞審査結果について掲載することが報告され，了承された。
5. 次回幹事会日程について：次回幹事会は2021年10月にオンライン方式にて開催することとした。

#### 第88回(2022年度第1回)新旧合同幹事会 議事要録

日時：2021年10月10日(日) 10:00～12:20

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：能城会長，村上庶務幹事，山川会計幹事，西内広報・渉外幹事，工藤編集委員長，真邊行事委員長，浦行事副委員長，那須前行事委員長，林前行事副委員長

#### 報告事項

1. 会員動向および会費納入状況：2021年9月30日現在の会員数が報告された(名誉会員2名，賛助会員1社，一般会員250名，シニア会員28名，学生会員20名，団体会員4団体)。2021年7月1日からの増減は，入会者なし，退会者7名(一般会員5名，学生会員1名，シニア会員1名)，逝去1名(名誉会員1名)であった。会費納入状況について報告された。
2. 会長選挙・評議員選挙の結果について：第13期会長選挙・評議員選挙の結果が報告された。第13期会長には能城修一氏，評議員には江口誠一氏，那須浩郎氏，百原新氏，矢部淳氏が選出された。
3. 第6回論文賞の結果について：第6回論文賞審査委員会による選考の結果，高岡貞夫，苅谷愛彦「長野県梓川上流域における地形植生史」(第28巻2号，pp. 47-58)および赤司千恵，門脇誠二，ファルハド＝キリエフ，西秋良宏「アゼルバイジャンにおけるヨモギ属 (*Artemisia* sp.) 利用史」(第28巻2号，pp. 59-70)が第6回論文賞に決定したことが報告され，大会において表彰されることが了承された。
4. 植生史研究の編集状況について：第30巻1号，2号が刊行に向けて準備中であることが報告された。
5. 植生史研究のJ-STAGE登録について：登録作業が順調に進んでいることが報告された。

6. 第 50 回談話会および第 37 回大会について：談話会として行うオンライン同定会の準備状況が報告された。また第 37 回大会（会場：奈良文化財研究所）の開催時期について 10 月上～中旬に行う方向で調整しており、来年春には日程確定の予定であることが報告された。
7. 学会運営改善案について：昨年度に実施した会員アンケートの結果をうけた学会運営改善案の準備状況が報告され、総会において諮ることが確認された。

#### 審議事項

- シニア会員の承認について：申請のあった 1 名の一般会員について、2022 年度からのシニア会員への種別変更を承認した。
- 第 36 回大会について：10 月 30 日（土）、31 日（日）に帝京大学文化財研究所（山梨県笛吹市）で対面方式とオンライン方式のハイブリッド方式にて行う大会の詳細について、9 月末にホームページとメーリングリストにて発信した第 3 報（最終報）の内容を、ニュースレターとして発送することが確認された。
- 第 49 回談話会について：第 49 回談話会として講習会「オンライン花粉化石勉強会」をオンライン方式にて 2021 年 12 月 18 日に開催することが了承された。
- 植生史研究バックナンバー価格の改定について：植生史研究 第 28 巻第 1 号（2019 年 10 月発行）の価格を 500 円に改定し、PDF を学会ホームページで公開することとした。
- 今後の編集体制の検討：植生史研究の編集体制について現状と問題点が報告され、会誌の今後のあり方も含めて継続的な協議が必要であることが確認された。
- 次号ニュースレターの内容について：次号ニュースレター（No. 55）には第 36 回大会案内の最終報を掲載する必要があることが確認された。
- 次回幹事会日程について：次回幹事会は 2022 年 4 月頃にオンライン方式にて開催することとした。

#### 2022 年度評議員会 議事要録

日時：2021 年 10 月 28 日（木） 12:30～13:50

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者：江口誠一、那須浩郎、百原 新、矢部 淳 評議員、能城会長、村上庶務幹事、山川会計幹事、西内広報・渉外幹事、工藤編集委員長、藤井自然史学会連合担当

#### 報告事項

- 2021 年度の事業報告および決算報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。主な案件は以下の通りである。
  - 昨年度実施の会員アンケート結果を踏まえた学会運営改善案について、補足が必要との意見があり、会誌の

オンラインでの公開が学会の一般への普及を図る機会となること、会員増加を図ること以外にも学会の収入増の方策を考えていく必要があることが追加・補足事項として確認された。

- 2022 年度事業計画の幹事会案を審議し、承認した。主な案件は以下の通りである。
  - 会誌刊行を適切な状態に維持するべく、会員に投稿を呼びかけ、公開シンポジウムの内容を特集号の形で刊行していくなど、具体的な取り組みが必要であることが確認された。
  - オンライン大会開催時の大会準備金・貸付金を決算と予算にどう記載するかについて審議し、Zoom の契約等に使用した後の残金を大会実行委員会からの寄付という扱いで収入に含めることが確認された。
- その他、次の案件について審議した。
  - 会誌の電子媒体化について：先行して J-STAGE での公開を進めていくこととし、会誌の電子媒体化については将来的に必要な課題として今後も引き続き幹事会で協議することとなった。
  - 会費滞納の状況とその対応策について：滞納額が大きくなる前に早めに声かけをしていく必要があることが確認された。

#### 2022 年度総会議事要録

日時：2021 年 10 月 31 日（日） 11:15～11:55

場所：帝京大学文化財研究所／オンライン会議のハイブリッド方式

議長：植月 学

#### 1. 報告事項

##### 1. 2021 年度事業報告

##### 1-1. 庶務

- 1) 会員動向（2021 年 9 月 30 日現在）：名誉会員 2 名、賛助会員 1 社、一般会員 250 名、シニア会員 28 名、学生会員 20 名、団体会員 4 団体  
前年度比：名誉会員－1 名（逝去）、賛助会員±0 社、一般会員－13 名（入会＋3 名、シニア会員への種別変更－4 名、退会－12 名）、シニア会員＋3 名（一般会員からの種別変更＋4 名、退会－1 名）、学生会員－1 名（入会＋5 名、退会－6 名）、団体会員－1 団体。
- 2) シニア会員を募集し、応募のあった 4 名の会員について承認した。
- 3) 2021 年度評議員会を 2020 年 10 月 26 日に、総会を 10 月 31 日に Zoom によるオンライン方式にて開催した。
- 4) 第 13 期会長選挙および評議員選挙を実施した（選

挙管理委員長 山崎 健)。第13期会長に能城修一氏、第13期評議員に江口誠一氏、那須浩郎氏、百原 新氏、矢部 淳氏が選出された。

5) 第13期役員編成を行い、庶務幹事を村上由美子氏に、会計幹事を山川千代美氏に、広報・渉外幹事を西内李佳氏に、編集委員長を工藤雄一郎氏に、同副委員長を星野安治氏に、行事委員長を真邊 彩氏に、同副委員長を浦 蓉子氏に、自然史学会連合担当幹事は藤井伸二氏にそれぞれ委嘱した。

6) 幹事会を2020年10月26日、2021年4月12日、7月26日に、いずれもZoomによるオンライン方式にて開催した。

7) 2020年度実施の会員アンケートの結果をうけて、学会運営改善案の策定を行った。

### 1-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレター53号、54号を編集、刊行した。
- 2) メーリングリストによる情報配信を適宜行った。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行った。
- 4) 会誌「植生史研究」をJ-STAGEにて公開開始した。

### 1-3. 編集

会誌「植生史研究」第29巻第1号、第2号を編集、刊行した。

### 1-4. 行事

1) 第35回日本植生史学会大会を2020年10月31日にZoomによるオンライン方式にて開催した。参加者は74名であった。大会実行委員長：百原 新、大会実行委員：矢部 淳、若杉糸絵、工藤雄一郎、那須浩郎、林 竜馬、真邊 彩、浦 蓉子。

2) 第48回談話会を2020年12月19日に開催した。テーマは「オンライン大型植物遺体同定会」とし、参加者は30名であった。講師：百原 新(千葉大学)、講師補助：那須浩郎(岡山理科大学)。

3) 第36回大会を2021年10月30日・31日に帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)とZoomによるハイブリッド方式にて開催するべく準備した。

## 2. 2021年度決算報告(別紙)および会計監査報告

2021年度の決算が報告され、半田久美子会計監査(代理：山川千代美会計幹事)より適正に処理されていたことが報告された。

## 3. 第6回論文賞

日本植生史学会表彰規程に則って、第6回論文賞審査

委員会(西田治文委員長、佐々木由香委員、高原 光委員、百原 新委員、守田益宗委員)を設置し、審査を行った。その結果、審査委員会は第6回日本植生史学会論文賞を、「植生史研究」第28巻第2号の原著論文「長野県梓川上流域における地形植生史：山地の斜面発達と植生分布構造」(高岡貞夫・苅谷愛彦)、第28巻第2号の総説「アゼルバイジャンにおけるヨモギ属(*Artemisia* spp.)利用史」(赤司千恵・門脇誠二・ファルハド=キリエフ・西秋良宏)の2本に決定した。

授賞理由(高岡・苅谷論文)：本論文は、長野県西穂高岳南側斜面を構成する玄文沢・善六沢流域の全域にわたる地形判読と現地調査による詳細な地形区分・植生調査により、地滑りや土石流がもたらした地形とその影響を受けた植生の形成過程を、具体的かつ多面的に検討したものである。現地での植生調査と年輪計測、土石流堆積物の放射性炭素年代測定により、地形形成過程と植生発達過程について詳細な時系列に位置づけた検証がなされた。約370~350年前に発生した大規模地滑りが、発生源となった山腹斜面と土砂の堆積域となった沖積錐のそれぞれで、植生の立地形成や攪乱条件の変化をもたらした。現在の植生分布構造に影響を残していることを明らかにした。そこでは、沖積錐などの地形形成によって周囲の攪乱状況が変化し、それがさらに植生に影響を与えるといった地形形成と植生発達との関係を、従来の地形学・植生学にはなかった視点で明確に示している。さらに、亜高山帯の森林の構成樹種がそれぞれの種特性に応じて、地形条件と攪乱様式にตอบสนองして住み分けていることを明らかにした。斜面地形形成と植生発達との関係が、後氷期以降の気候変化に応じて変化した可能性についても言及している。これらの知見は、亜高山帯の植生・地形の形成史研究だけではなく、斜面崩壊や土石流が頻繁に起こる日本列島の防災や生物多様性の保全にも貢献すると考えられる。以上の点から、当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして、論文賞候補に値する。

授賞理由(赤司ほか総説)：赤司氏、門脇氏ほかによる本総説では、西アジア地域において、民族植物誌や考古学に関して詳細な文献調査を行い、さらに困難な条件下(赤司ほか、巻頭写真 ギョイトペ遺跡アゼルバイジャン・日本による共同発掘調査、植生史研究28:45-46,2020)でのフィールドワークに基づき、特にヨモギ属植物が防虫剤として利用されていた可能性を世界ではじめて明らかにしたことを紹介している。まず、ヨモギ属植物が伝統社会でどのように利用されているかを概観するため、各地の民族薬理学的な調査報告に基づき、ヨモギ属植物の薬用、食用、獣医学、防臭剤など、多岐にわたる使用例を一覧表にまとめた。さらに、考古植物データベースを用いて、西アジアでのヨモギ属種実の出土例について解説し、その種実の出

## 2021年度決算報告(2020年10月1日～2021年9月30日)

取 入	2021年度予算	2021年度決算	
一般・シニア・学生会員会費	1,704,000	1,518,000	一般会員 6,000 × 232 名, シニア会員 3,000 × 27 名, 学生会員 3,000 × 15 名
団体・賛助会員会費	60,000	60,000	団体会員 8,000 円 × 3 団体, 16,000 円 × 1 団体, 賛助会員 20,000 円 × 1 団体
会誌売上(特別号含む)	2,400	0	
利息	26	14	
大会準備金剰余金寄付	0	79,760	
学術著作権	33,000	90,076	
小計	1,799,426	1,747,850	
前年度繰越金	5,251,195	5,251,195	
合計	7,050,621	6,999,045	
支 出			
学会事務委託経費			
基本業務委託	396,000	478,225	会員管理, 受付業務, 選挙業務, 会誌発送業務 2 回
発送手数料	129,780	92,605	会費請求 2 回, メーリングリスト配信管理
委託業務経費実費分			
郵送料	161,000	131,664	会誌 29-1, 2 (2 号分), ニュースレター 1 回, 等
印刷費	25,000	30,338	会費請求書, 選挙投票用紙
封筒・封筒印刷費	23,000	125,180	角 2 (500 部) 長 3 (2000 部) 角 8 (500 部) ・払込取扱票 (1000 部) ・選挙関連を含む
コピー代	12,000	87,967	ニュースレター複写含む
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,400,000	531,300	第 29 巻 1 号 (240,625 円), 2 号 (290,675 円) / 第 30 巻 1 号 2 号未刊行
大会費			
2021 年度大会準備金	100,000	100,000	*2020 年度に支出しなかったが, 2021 年度に支出, 貸付金は支出せず
2022 年度大会準備金	100,000	100,000	
事務経費			
郵送料	5,000	580	支払い郵送料等
一般事務経費	5,000	5,060	銀行振込み手数料 (4,620 円), 文具類 (440 円) 等
広報・HP 管理	10,000	9,550	サーバー/ドメイン契約料 (4,312 円), HP サイト管理等 (5,238 円)
J-STAGE 登録	300,000	124,948	処理件数 238, 人件費 @ 500/1 件, AcrobatDC 利用料 2948 円, OCR 変換費 3000 円
幹事会など会議等			
旅費	125,000	0	幹事会 2 回 web 会議, 会計監査 Zoom, メール説明
自然史学会連合分担金	20,000	20,000	20,000 円/年
行事費			新型コロナウイルスによる巡検見送り
講師謝金	30,000	0	会員講師による Zoom 談話会開催 (大会準備金から Zoom 使用料を支出)
表彰関係			
奨励賞副賞	50,000	50,000	賞 1 名
賞受賞者懇親会招待	6,000	0	(賞 1 名) オンライン大会により Zoom 懇親会
優秀発表賞関連経費	60,000	0	(30,000 円 × 2 件) 該当者なし
国際会議等への参加助成	50,000	0	新型コロナウイルスによる大会延期等により参加できない状況のため
予備費	100,000	0	
合計	3,107,780	1,887,417	
次年度繰越金	3,942,841	5,111,628	

土が地域的であり, 稀であることを示した上で, 両氏の参加する日本とアゼルバイジャンの共同発掘調査研究グループが行ったアゼルバイジャンのギョイテペ遺跡の出土状況を中心に詳しく紹介し, 炭化種子が高い頻度で出土するヨモギ属が防虫剤として利用されていたことを明らかにした。種実の出土例が少ないヨモギ属であるが, 世界中で様々な利用がされていることから, 本総説が, このような植物の利用史の発展につながることを期待される。本総説は, 以上の点を高く評価し, 日本植生史学会論文賞にふさわしいと判断し, ここに推薦する。

## 4. 第 6 回優秀発表賞

日本植生史学会表彰規程に則って, 第 6 回優秀発表賞審査委員会(高原 光委員長)を設置し, 審査を行った。その結果, 第 6 回日本植生史学会優秀発表賞は次の 3 件の発表に決定した。

1. 菊地達郎・百原 新・阿部恭久・糟谷大河「前期更新世クロサイワイタケ科(Xylariaceae)菌類化石の形態分類と古環境指標としての有用性」

2. 林 尚輝・井上 淳「大隅半島中部における植物珪酸体分析に基づく過去約 3 万年前以降の植生変遷の復元」

3. 淵 真琴・佐々木由香・小泉玲子「圧痕レプリカ法を用いた編みかごの復元—縄文時代中期の金子台遺跡・弥生時代前期の中屋敷遺跡の土器敷物圧痕から—」

## 5. 会員の除名

会則第4条hに則り、会費の長期滞納により4名の会員について、2021年12月15日までに納入がない場合は除名することとした。

## 6. 自然史学会連合活動報告

2020年11月26日 2020年度第1回運営委員会開催

議事・報告内容：講演会の運営、日本学術会議に関する声明への対応、自然史博物館構想、総会の日程と総会準備、予算・決算

12月6日 講演会「九州北部から広がる自然史研究：化石からランまで」開催（北九州市立自然史・歴史博物館）

12月12日 第2回運営委員会

議事・報告内容：講演会の報告、来年度以降の講演会候補地、来年度以降の運営体制、総会の準備

12月12日 総会開催

報告事項：加盟団体の現状、運営委員会の開催、講演会の開催、博物館部会の運営、HPの運営、生物科学学会連合第22回定例会議、共同声明「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する緊急声明」について、国立自然史博物館構想に関する意見聴取

審議事項：2019年度決算報告（説明者：海老原）、2019年度会計監査報告、2020年度会計経過報告、2021年度事業案・予算案

※共同声明「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する緊急声明」に至る経緯の説明：10月5日に参加学協会に声明賛同の意向を尋ねた。10月6日中に返事してもらい、返事のない場合には承諾とみなして10月9日に共同声明を発出した。これらの経緯の説明があり、緊急性が必要とされる中で密な連絡ができなかったことについて代表からの謝罪があった。

2021年5月20日 2021年度第1回運営委員会開催

議事・報告内容：講演会の準備、運営体制・代表選挙、総会の準備、生物科学連合定例会議

## II. 審議事項

### 1. 2022年度事業計画

#### 1-1. 庶務

1) 2022年度評議員会を2021年10月28日にZoomによるオンライン方式にて、総会を2021年10月31日に帝京大学文化財研究所：笛吹市とZoomによるハイブリッド方式にて開催する。

2) 第7回優秀発表賞の選定を行う。

3) 第13回奨励賞の選定を行う。

4) 幹事会を3回程度開催する。

#### 1-2. 広報・渉外

1) メーリングリストによる情報発信を適宜行う。

2) ニュースレターを編集・刊行し、配信はメーリングリストを中心に行う。

3) ホームページの保守管理および更新を行う。

4) 会誌「植生史研究」をJ-STAGEにて公開を行う。

#### 1-3. 編集

会誌「植生史研究」を編集し、第30巻第1号、2号、第31巻第1号、2号を刊行する。

#### 1-4. 行事

1) 第36回日本植生史学会大会を2021年10月30日・31日に帝京大学文化財研究所（山梨県笛吹市）とZoomによるハイブリッド方式にて開催する。大会実行委員長：中山誠二、大会実行委員：佐野隆、赤司千恵、工藤雄一郎、那須浩郎、林 竜馬、真邊 彩、浦 蓉子。

2) 第37回日本植生史学会大会を2022年10月上中旬頃の土日（正式な日程は春頃にアナウンス予定）に奈良文化財研究所（奈良市）において開催するべく準備する（COVID-19の状況次第でオンラインでの開催も検討）。大会実行委員長：星野安治

3) 第49回談話会、第50回談話会をオンライン方式も含めて開催するべく準備する。

## 2. 会計監査の選出

第13期会計監査に半田久美子氏が選出された。

## 3. 2022年度予算案

2022年度予算案について賛成多数で承認された。

### 第13期会長選挙および評議員選挙の結果報告

2021年8月12日に第13期会長選挙・評議員選挙の開票および集計を立会人2名のもと厳正に行いました。選挙権者総数は305人で、投票者総数は72人、投票率は23.6%でした。開票の結果、第13期会長に能城修一氏、第13期評議員に江口誠一氏、那須浩郎氏、百原 新氏、矢部 淳氏（五十音順）が当選しましたのでご報告申し上げます。

会長選挙（投票総数：72票）

能城修一 29票、百原 新 19票、山田昌久 4票

## 2022年度予算案(2021年10月1日～2022年9月30日)

取 入	2022年度予算	
一般・シニア・学生会員会費	1,644,000	一般会員 6,000 円× 250 名、シニア会員 3,000 円× 28 名、学生会員 3,000 円× 20 名
団体・賛助会員会費	60,000	団体会員 8,000 円× 3 団体・16,000 円× 1 団体、賛助会員 20,000 円× 1 社
会誌売上(特別号含む)	2,000	
利息	14	
大会準備金余剰金	0	
学術著作権	60,000	前々年度 33,356 円・前年度 90,076 円
小計	1,766,014	
前年度繰越金	5,111,628	
合計	6,877,642	

## 支 出

学会事務委託経費		
基本業務委託	450,000	会員管理(700円×316件)、受付業務120,000円、等
発送等手数料	93,000	会費請求2回76,000円、メーリングリスト管理配信16,500円等
委託業務経費実費分		
郵送費	138,000	会誌郵送128,000円、宅配メール便ニュースレター1回分10,000円等
ニュースレター印刷費	25,000	ニュースレター1回分
封筒・封筒印刷費	46,000	角2(1000部)
コピー代	45,000	
会誌印刷費		
会誌印刷費	1,200,000	第30巻1号,2号,第31巻1号,2号
大会費		
2023年度大会貸付金	100,000	
2023年度大会準備金	100,000	
事務経費		
郵送費	5,000	会誌移動郵送費等
一般事務経費	5,000	文房具、銀行振込み手数料等
広報・HP管理	10,000	サーバー/ドメイン契約料、HPサイト管理等
J-STAGE	50,000	J-STAGEへの入力作業アルバイト代(500円/件)等
幹事会など会議等		
旅費	25,000	会計監査旅費、自然史学会連合出張旅費
自然史学会連合分担金		
	20,000	20,000円/年
行事費		
オンライン経費	50,000	オンライン研修等機器類 Zoom契約料
講師謝金	30,000	談話会・巡検等
表彰関係		
賞受賞者懇親会招待	10,000	5000円×2
優秀発表賞関連経費	60,000	30,000円×2件
国際会議等への参加助成	50,000	50,000円×1件
予備費	100,000	
合計	2,612,000	
次年度繰越金	4,265,642	

評議員選挙(投票総数:281票,無効票:2票)(上位4名が当選)

那須浩郎24票,百原 新20票,工藤雄一郎<sup>\*1</sup>14票,矢部 淳12票,江口誠一8票,高原 光7票,吉川昌伸7票

<sup>\*1</sup>第13期編集委員長に就任予定のため辞退。

選挙管理委員長 山崎 健

## 会員の逝去について

名誉会員村田源君がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

## 会員動向(2021年3月～2021年12月)

## 新入会員(敬称略)

大塚麻友(学生)千葉大学園芸学部  
小林謙一(一般)中央大学  
千原鴻志(学生)北海道大学大学院  
平岡 和(学生)岡山理科大学大学院  
山崎京美(一般)國學院大學  
吉田仁香(学生)國學院大學

## 退会会員(敬称略,逝去会員を含む)

菊地達郎(学生),新井孝尚,柴崎大樹,中山弘樹,山田悟郎,  
山本悦世,綱本逸雄,四戸莞嗣(学生),村田 源,淵

真琴 (学生), 佐藤宏之, 宮浦 舞

E-Mail: hisbot-office01@shunkosha.com

第13期日本植生史学会役員

(任期: 2021年10月1日~2023年9月30日)

会 長 : 能城修一

評議員 : 江口誠一, 那須浩郎, 百原 新, 矢部 淳

会計監査: 半田久美子

幹 事 : 村上由美子 (庶務), 山川千代美 (会計), 西内  
李佳 (広報・渉外)

編集委員会: 工藤雄一郎 (委員長), 星野安治 (副委員長)

行事委員会: 真邊 彩 (委員長), 浦 蓉子 (副委員長)

自然史学会連合担当: 藤井伸二

その他の連絡先は, 以下の通りです。

連絡・問い合わせ, 転載許可申請, シニア会員申請

庶務幹事 村上由美子

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学総合博物館

TEL 075-753-3279 FAX 075-753-3277

E-Mail: hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ, 企業広告送付先

編集委員長 工藤雄一郎

E-Mail: hbjournal@hisbot.jp

各種連絡先

入会・異動・退会・購読の申し込み

(バックナンバー購入, メーリングリストアドレス登録・変更,  
メーリングリストへの投稿記事)

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダッ  
クスビル

(株) 春恒社 学会事業部内 日本植生史学会事務局

TEL 03-5291-6231 FAX 03-5291-2176

ホームページや企業広告に関する問い合わせ

広報・渉外幹事 西内李佳

E-Mail: hbnews@hisbot.jp

